

管弦打コース

管弦打コース演奏会

12月14日(水) 18:30よりiichiko総合文化センター音の泉ホールで「芸短音楽科コンサートシリーズNo.59 管弦打コース演奏会」クリスマスコンサート: 師走に心温まるひと時を”を開催しました。2年前から6回のコンサートシリーズのうち3回は声楽・ピアノ・管弦打と3つのコースで担当し、それぞれ独自の企画を打ち出しています。今回はヴァイオリンデュオとフルートデュオ(いずれもピアノ伴奏付き)、木管とピアノのカルテット、フルートカルテット、トロンボーンカルテット、クラリネットアンサンブル、打楽器アンサンブル、弦楽アンサンブル、と楽器編成が多彩でそれぞれ特色ある作品を披露し、最後は森口准教授の指揮によるオーケストラの演奏でコンサートを締めくくりました。弦楽アンサンブル、打楽器アンサンブル、オーケストラの演奏には演奏員、教員も参加し、公開研究発表とは違ってリラックスした雰囲気の中で純粋に音楽を楽しむ内容のコンサートとなりました。



ミレニアム コンサート

「ミレニアム コンサート」
パカッショングループ「ミレニアム」第13回コンサートを12月2日(金) iichiko音の泉ホールで開催しました。これは打楽器専攻科生有志によるもので、今回は学生と教員合わせて10名が参加し、これまでで最も多い人数となりました。演奏曲目はアンコールも含めて10曲で、ジャズ・アフリカン・ガムラン・ミニマル等多種多様なジャンルに渡る作品を演奏しました。

9月10日(土)
演奏会
竹田スローフード
竹田市但馬屋新屋2Fムジカカリア アラヤサラにて管弦打コースよりヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、フルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバ、そして打楽器の学生たちによって楽器紹介にはじまり、アンサンブルとサンサーンス作曲「動物の謝肉祭」を午前と午後2回演奏しました。進行と指揮は、清水教授が行いました。9時に芸文短大をバスで出発し、18時に帰って参りました。演奏の合間や終了後には、竹田のスローフード体験があり、稲荷寿司を作って食し、街中のカフェやソフトリウム、そして足湯も楽しみました。

弦楽アンサンブルによる「ふれあいコンサート 上津江小学校」に出演して

専攻科 音楽専攻 2年 酒井 奈央
今回、上津江小学校での演奏は二度目で、前回の子どもたちの元気のいいあいさつや一生懸命に太鼓を叩く姿に感動したことを思い出しながら、期待に胸を膨らませ向かいました。今年度で廃校になってしまうと聞いていましたが、去年と同様に子供たちは明るく、たくさんのパワーを届けてくれました。子供たちは自然体で熱心に耳を傾け、素直な心で聴いてくれたということを感じることができました。また、日々の練習で忘れていた音楽の楽しさや、どんな音楽でも聴いてくれる人がいることで成り立つという大切なことに気付かされました。これからも、ますます芸短生が音楽の魅力を通して、芸術文化の発展に貢献する機会を経験し、またその貴重な体験の中で得たものを自らの音楽活動に活かして欲しいです。私もひとつひとつの演奏できる環境に感謝して音楽を続けていきたいと思っています。



指揮コース

指揮者を自指す人はもちろん、指揮専攻でなくてもオーケストラやオペラに興味のある人はどなたでも大歓迎です。他人との共同作業をいとわず、音楽への愛情があれば指揮の経験、音楽への関心は決まらず、音楽を学び、演奏することは決してやさしいものではないかもしれませんが、生涯かけて追及するに値するものです。臆せず挑戦してみませんか。

「川瀬麻由美と門下生による10周年記念コンサート ~芸短生との10年の歩み~」

川瀬 麻由美 教授
芸短に赴任して10年目を迎えた今年、今まで指導した弦楽器の学生と卒業生33名、そしてこの企画に賛同し、出演を承諾して下さった先生や音楽仲間も集結し、11月4日、音の泉ホールにて華やかな演奏会が開かれました。ヴィヴァルディの「四季」ではソロを弾き、チャイコフスキーの「フィレンツェの思い出」でコンサートマスターを務めましたが、彼らとの共演は私自身にとって忘れられないステージとなりました。音楽業界で就職することは決して容易なことではありませんが、音楽教室の講師や小中学校教諭、ミュージシャン以外にも会社員、銀行員など勤めながら市民オーケストラに所属するなどそれぞれいろんな形でヴァイオリンを続けていることを嬉しく思いました。大分にジュニアオーケストラを設立し、子供たちにも音楽を通したコミュニケーションの素晴らしさを教授しております。これからまた20年後、30年後とステージから溢れんばかりの門下生を輩出していこうと意気込んでおります。



川瀬麻由美と門下生による10周年記念コンサート

作曲コース



作曲コースでは、あらゆる音楽の活動に役立つような、作曲に関する基礎的な技法を学びます。授業では、和声(ハーモニー)・対位法(旋律)・コード進行法・曲分析・アレンジ・オーケストレーションなどを行い、それぞれが自由なスタイルや編成の中で自分の音楽を追求していきます。また、コンクールに応募したり、作曲を中心に様々な音楽活動をしたりもしています。作曲の経験がなくても、吹奏楽や得意な楽器の経験から作曲を勉強する人も多いです。

最近の学生作品

- 金管八重奏曲 眞田大祐(2年)
- a Simple Song(ピアノ連弾) 小田原 葵(2年)
- 「迷い」(歌曲) 秋月 香林(2年)
- Vague(トロンボーンとピアノ) 幸 千晴(専攻科1年)
- nostalgia(弦楽四重奏) 吉野真知子(専攻科1年)
- 関根栄一の詩による合唱曲「袖子の月」 密成 侘果(専攻科2年)

作曲コース 学生自己紹介

1年/主科で作曲をしながら副科でピアノと声楽とヴァイオリンをしています。ダンスサークルにも入っています。自分の学びたい事やしたいことができ、毎日楽しいです。これからもがんばります。

1年/チェロを副科でとっているのですが、管弦打コースの方と混じってオーケストラの授業にもせていただいています。作曲だけでなくいろいろな授業があって、とても充実しています。

1年/最近先輩方が作曲した曲を聴く機会があり、すごく感動して刺激を頂きました。私自身は3月31日にコンパルホールで自作曲を披露するので、先輩方に負けないようにすばらしい曲を作る予定です。

1年/福岡からやってきました。高校では吹奏楽部でしたが、大学では作曲コースを選びました。作曲コースはみんな仲良く、先生もおもしろいです。まだまだ未熟ですが、これからもがんばります。

2年/私はこれまで学んできた自分の力を試すために、できるだけコンクールに曲を提出するようにしています。その時に頂いた賞や先生方の評価は、私の勉強に対する励みになっています。今後もこういった活動を続けたいです。

2年/今は卒業作品製作中で、ピアノの連弾にパフォーマンスを組み込み、視覚的にも楽しめる曲を考えています。作曲だけではなくオペラサークルにも所属し、裏方として昨年12月に「魔笛」公演を終えました。

専攻科1年/私は大学で作曲の勉強をしながらヤマハのグレード取得のためにエレクーンとピアノのレッスンに通っています。両立は大変ですが、これからも自分の夢に向かってがんばりたいと思います。

専攻科1年/私は映画音楽がきっかけで作曲を始めました。最近では写真家の方とのコラボレーションでオーストリアの花の写真に曲の提供をさせて頂いた作品がYouTubeにアップされました。これからは自分の作品のクオリティーを上げることと発信すること両方に力を入れていきたいです。

専攻科2年/私は、今年学位授与の試験を受けました。課題は15分以上の創作でしたが、先生のご指導の下どうにか仕上げることができました。研究の成果を作品にすることができ、よい経験になったと思っています。

声楽コース

声楽コースでは小林道夫、佐藤美枝子両客員教授による公開レッスンを専攻科生が、瀬山詠子講師による公開レッスンを短大2年生と専攻科生の全員が受講しました。

また、声楽コースの学生によるコンサートを2月17日18時30分~iichiko音の泉ホールにて開催し、後期実技試験優秀者による演奏(独唱)と専攻科生によるオペラ名場面集を演奏を通して観客に声楽の魅力を伝えました。



小林道雄 客員教授



佐藤美枝子 客員教授



瀬山詠子 講師

声楽 特別講座

ピアノコース

ピアノコース 学生の声

「ピアノコースに入学して、今、思う事」

私が芸文短大に進学しようと思った理由は、学費が安いという点もありますが、一番は音楽を学ぶ環境が整っており、短大という特性から柔軟な進路決定ができると思ったからです。入学して、芸文短大では演奏の技術だけを身につけるというだけでなく、先生方の経験も聞くことができ、自分自身の成長へと繋ぐことができます。また、出演者として演奏会に臨む機会もあり、楽器を奏でられる喜びや本番をやり遂げて生まれる達成感他では体験できない貴重なものです。私自身は、これらの経験で入学した時の自分より成長することができたと思います。このような恵まれた環境は他ではないと思うので、この時間を大切に、より高いレベルを目指して自分の音楽を磨いていきたいです。(短大1年 山崎昭汰)

「第2回ピアノコース演奏会に出演して」

今回、昨年から始まったピアノコースの演奏会に出演させていただきました。舞台上弾くことは常に憧れであり、目標としていることです。何度も悔しい思いもし、いつか自分が弾けたらなとずっと思ってきました。芸文短大入学当時、私は音楽に対する姿勢を何一つわかっていなく、ゼロ以下からのスタートでした。そんな私が念願の専攻科に入学することができ、ここに出られたのは、実力でも才能でもなく、真の音楽というもの、努力の姿勢、真っ直ぐに音楽に挑むことを教えてくれ、一緒に音楽を創ってくれた先生の支えのおかげだと思っています。一度しかない演奏本番は不安でした。でもだからこそ生身の魂を奏で、それを聴いてもらうという音楽のやりとりはこの上ない宝物の瞬間でした。私達学生にとって、舞台上弾けるということは本当に貴重なことで、このような体験をさせて頂いたことに本当に感謝しています。多くの人の支えがあり学んでいることへの感謝を忘れず、この経験を糧に、人の心に響く演奏を求めて学び続けたいと思います。本当にありがとうございました。(専攻科1年 時田有美)

「専攻科修了を間近に控えて、芸文短大ピアノコースで学んだことを振り返って」

この4年間、音楽を通して、学問的なことから精神的なことまで幅広く多くのことを学ぶ機会に恵まれました。特に専攻科に入学してからは、演奏を通じて人に何かを伝えようとした時に、自分の中に具体的なイメージがないと表現できないことに気付かされ、絵画の展覧会や講演会などにもできる限り足を運ぶようになりました。

ピアノの演奏そのものは、孤独な作業ですが、幸い良き友人に恵まれ、音楽を奏でる喜びだけではなく、悩みをも共有しながら充実した学生生活が送れたことは生涯を通じての大切な思い出になることと思います。また、先生方には演奏に関することはもちろん、進路についても親身になって相談を頂いたこと、心から感謝しています。芸文短大で学んだことを糧に、今後も研鑽を重ねて行くつもりです。(専攻科2年 戸江 真以)



理論コースでは実技とは異なる音楽学(の)「出会い」があり「発見」があります。「音楽と真剣に向き合っていく」という意欲ある人、「好きな音楽で大学へ進む、就職は「一般企業」を」という希望を持っている人を理論コースでは歓迎します。

理論コースでは実技とは異なる音楽学(の)「出会い」があり「発見」があります。「音楽と真剣に向き合っていく」という意欲ある人、「好きな音楽で大学へ進む、就職は「一般企業」を」という希望を持っている人を理論コースでは歓迎します。

卒業後の進路を論文のテーマ同様多様です。教職を取り、中学校の音楽教師を目指すもの、ヤマハ・ファイの講師、一般就職、専攻科への進学が代表的です。音楽関係の進学、就職については、音楽科教員が丸くなって学生を支援していますが、一般就職においては理論コースの指導教員に加え音楽科の進路支援担当教員および、本学全体の組織「進路支援室」のサポートを得て、きめ細かい対応をさせていただきます。

卒業論文をまとめる際には、文章・楽譜の作成にコンピュータを活用し、発表においてもコンピュータを使用したプレゼンテーションを義務付けています。日本語だけでなく英語の読解を深め、英語の論文も読めるように努力をします。

卒業論文をまとめる際には、文章・楽譜の作成にコンピュータを活用し、発表においてもコンピュータを使用したプレゼンテーションを義務付けています。日本語だけでなく英語の読解を深め、英語の論文も読めるように努力をします。

理論コース

理論コースでは音楽史と音楽分析を学び、コンピュータを活用し、研究論文にまで高めるようにカリキュラムと施設を整備しています。

「理論」といって堅苦しく聞かれますが、分野を問わず私たちが感覚的に「行っている」の根拠にある根本的な「ルール」を発見することが「理論」とあるといえます。

理論コースでは、音楽について、「言葉」で考える力、表現する力を養成する。一方、音楽の成り立ち(音楽史)と仕組み(和声・対位法)を学びます。

卒業時に各自が選んだテーマに沿って論文をまとめます。そのテーマは別々にラシック音楽に限らず、ジャズ、ポップス、ロックなどの大衆音楽、さらには国歌音楽療法といった分野まで幅広い分野を扱っています。

卒業論文をまとめる際には、文章・楽譜の作成にコンピュータを活用し、発表においてもコンピュータを使用したプレゼンテーションを義務付けています。日本語だけでなく英語の読解を深め、英語の論文も読めるように努力をします。